

エネルギーについて考える

Energies of the Future

現代の私たちの生活は、電気やガス、ガソリンなどのエネルギーがなくては、成り立ちません。そのエネルギーの源は、石油や石炭などの化石燃料などが主なものです。しかし、その資源には限りがあります。日本には資源が少ないため、電気を作ったりするための資源の多くを海外から買っています。そのため、海外の出来事の影響を必要以上に受けやすくなります。

また、私たちの住む地球は温暖化が進んでいます。この原因は、化石燃料の燃焼による二酸化炭素（CO₂）等の温室効果ガスが主な原因とされています。

■一次エネルギー自給率比較（H27年）

1位	ノルウェー	702.6%
2位	オーストラリア	304.3%
3位	カナダ	174.4%

日本のエネルギー自給率 34位

7.4%

これは諸外国に比べて、とても低い数字です。

Q. 日本はどのような資源に依存していますか？

A. 海外から輸入される石油・石炭・天然ガスなどの化石燃料に大きく依存しており、平成28年度では、89%となっています。

Q. 日本は、どのような国から資源を輸入していますか？

A. 原油はサウジアラビアやアラブ首長国連邦等の中東などに約86%依存しています。また、天然ガスや石炭についても、そのほとんどを海外からの輸入に頼っています。

Q. 日本は温室効果ガスをどれくらい排出していますか？

A. 東日本大震災以降、日本の温室効果ガス排出量は増加し、平成25年度には過去最高となる14億トンもの温室効果ガスを排出しました。平成26年度以降は減少に転じていますが、平成28年度でも13億700万トンもの温室効果ガスを排出しています。今後、各国の目標と遜色ない水準で削減に向けた努力をしないとはいけません。

Q. 温室効果ガスとは？

A. 大気圏にあって、地表から放射された赤外線の一部を吸収することにより、温室効果をもたらす気体の総称です。二酸化炭素、メタンなどが該当します。地球温暖化の主な原因とされています。

今さら聞けない「パリ協定」とは？

平成27年12月、すべての国が参加する公平かつ実効性のある新たな国際的な枠組みであるパリ協定が採択されました。世界の平均気温を産業革命以前に比べて2℃より十分低く保ち1.5℃に抑える努力をすることが決まりました。

日本の温室効果ガス削減目標

2030年度に2013年度比

▲ 26.0%

約14億トン



約10億4,200万トン